氏　名　尾野　薫

主論文審査の要旨

本論文は、地域住民の経験・記憶に基づいた地域景観を理解することが重要であると考え、これを明らかにするための分析手法の構築を目指すものである。

２章では、景観や生活風景に関する既往研究や既存概念を参考に、視点の整理と分析対象の選定を行った。まず、既往研究や既存概念による風景の認識・生成過程を整理し、環境のイメージの認識プロセスとそれに応じて析出される成分から、日常生活に基づいた景観特性を理解するために本論で用いる経験・記憶という視点を示した。次に、既存の記憶システムの概念について整理し、この概念に基づいて経験・記憶に関する景観研究を分類することで、経験・記憶を意味同士の繋がりや関係によって再構成し経験・記憶を構造化する「意味の構造化」研究として本論文を位置付けた。続いて記憶システムの概念のひとつであるエピソード記憶を捉えるための分析対象について整理し、生活史を分析対象とする意義と分析者の解釈をできるだけ排除した分析対象・分析手法が望ましいことと、分析対象『街は記憶する』の選定理由を示した。

３章では、テキストマイニングといった言語表現を分析する手法とその概念について整理し、経験・記憶から地域景観を理解するための新たな分析手法を構築した。まず、既往研究から言語による表現媒体の分析手法を整理し、定量的・構造的な分析に加えて現象の解明を行う定性的な分析を行うために言語的概念に基づいたテキストマイニングを活用する意義を示した。その結果、本論文では、経験・記憶を構成する要素の抽出に文法や言語論などのテキストマイニングでも用いられる言語学的概念に基づいてルールを設定し、要素の抽出・構造化を試みることとした。要素となる名詞句の抽出は、テキストマイニングでも用いられる文法的関係のひとつである格助詞を抽出の目印とした。また、要素の抽出に用いた文法的関係・要素の役割と種類を手がかりに図化のルールを構築した。

４章では、3.5 にて提示した新たな分析手法について、解釈による分析と新たな分析手法による経験・記憶の捉え方について、事例『苦海浄土』を用いて①石牟礼作品に対する解釈、②3.5.1 にて提案した手法で抽出された要素の定量分析、③3.5.2 にて提案した手法による図化の３つを比較し、新たな分析手法の検証を行った。その結果、提案した分析手法では、『苦海浄土』の解釈で挙げられた農民の視座という内部から表現した農民の生活体験について、海上・地上・その他の記述ごとに詳細に分析することができ、各記述の傾向や生活体験の捉え方について明らかにすることができた。以上の結果より、新たな分析手法では、生活体験の捉え方を分析できる可能性を有していると考えることができる。

５章では、生活史『街は記憶する』に対して提案手法を適用し、記憶・経験における地域景観について、事例分析として分析・考察した。『街は記憶する』から抽出された要素に対して定量的分析と図化を行い、繰り返し要素、包括要素、その他の要素と分類した要素ごとに、各要素の機能と図の様相から、各個人の構造的特徴と物性的特徴について考察した。その結果、繰り返し要素には記憶の変化点や結節点となる構造的特徴と、拠点性・中心性・刺激性を有する物性的特徴があることを明らかにした。また、包括要素には記憶の集合体を形成す

る構造的特徴と、地域性・属性・時代性という物性的特徴があることを明らかにした。ただし、どの物性的特性によって集合体を形成するかは人により異なっていた。また、人の認識は時間経過と共に変化するだけではなく、その経験頻度によって記憶される要素に違いが発生する可能性を示した。記憶・経験に基づいた地域景観を捉える際には、ランドマークや行動拠点による空間的要素、関わりがある個人や所属組織といった物的要素、非日常的な出来事としての媒質要素が手がかりとなる可能性が明らかになった。特に、空間的要素や物的要素は日常的な利用や関わりが、記憶を構成する際の骨格になっていることを示した。以上より、記憶・経験に基づいた地域景観には、日常的な利活用や人同士の関わりを踏まえた地域計画やまちづくりを考えることが重要になると示唆した。また、本論文で構築した分析手法の有効性についても、確認できた。

以上の研究成果から本論文は、景観分野の論文として、詳細かつ正確な記述に裏打ちされたもので、質の高いものである。また、記憶・経験に基づいた地域景観を考えていく上での有意義な視点とその分析手法も提案されている。これらの成果は、工学的に高く評価でき、博士（工学）の学位を授与するに十分値するものと認められる。

最終試験の結果の要旨

以上の研究内容を、査読付き論文２編（うち第一筆者１編）を含む研究論文５編としてまとめ、うち１編は国際会議論文誌へ掲載され、国際発表にて１編の口頭発表・質疑応答を行っている。これは、本講座における学位授与基準を満たしている。

審査委員会は、学位論文提出者に対して当該論文の内容及び関連分野全般について試験を行った結果、論文提出者は当該研究分野及び周辺領域について十分な知識と理解力を有していると判断した。また、英文による論文も発表しているので、研究者として十分な研究遂行能力を有すると認め、試験は合格とした。また、得られた成果は広く活用されるべきであり、特許等の問題もないため、学位論文全文のインターネット公表をすることとした。本研究科において定める方法により、剽窃のチェックを行った結果、問題は認められなかった。

審査委員	環境共生工学専攻社会環境マネジメント講座	准教授	星野　裕司
審査委員	環境共生工学専攻社会環境マネジメント講座	教授	小林　一郎
審査委員	政策創造研究教育センター	准教授	田中　尚人
審査委員	法学部	教授	伊藤　洋典
審査委員	熊本学園大学商学部経営学科	准教授	川田　亮一
審査委員	環境共生工学専攻社会環境マネジメント講座	教授	溝上　章志